

JISWA最先端セミナー (3) レポート

発達障害グレーゾーンと疾病性

概要

日時 2019年7月17日 19:00~

場所 産業ソーシャルワーカー協会

内容 発達障害グレーゾーンに対する分類方法と、解決のためのPDCAサイクルについて

項目 1,発達障害グレーゾーンと疾病性
2,Q&A



講師紹介

浜口伝博

産業医

産業医科大学産業衛生教授

プロフィール

医師・医学博士

産業医科大学医学部卒業、

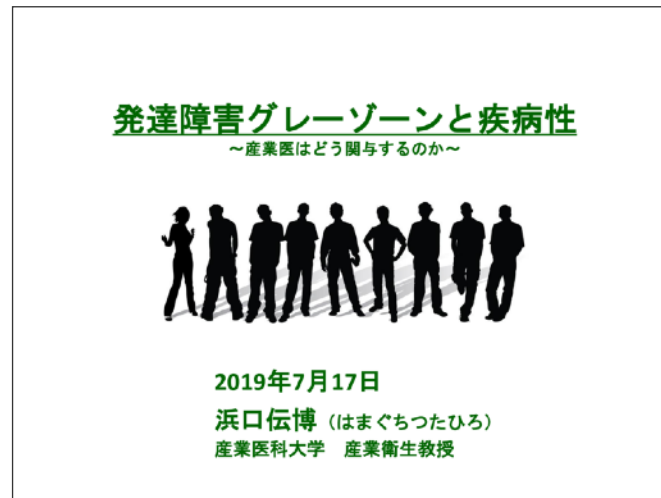


病院勤務後、(株)東芝(1985-1995、本社安全保健センター産業医)、および日本IBM(株)に勤務(1996-2005、統括産業医、アジアパシフィック産業医)

ファームアンドブレイン(有)を設立し、複数の大手企業にて統括産業医を担当また日本産業衛生学会「産業医プロフェッショナルコース」の運営責任者として、専門産業医の教育研修に取り組んでいる

慶應義塾大学医学部非常勤講師・順天堂大学医学部非常勤講師・東海大学医学部非常勤講師

1,発達障害グレーゾーンと疾病性



<現代の若者について>

- ・つながることを求め、テキストでコミュニケーションをとるため、電話やあいさつが苦手になっている
- ・ゲームやテレビなどを1日に6時間以上見る児童は六割を超えた
- ・表情を読む経験が少なく、物事の行間を読むことが苦手
- ・仕事よりプライベートを優先する傾向にある

キャリアデザインセンターは3月6日(2017)、同社の運営する「typeメンバーズパーク」会員向けに実施した「モンスター新人」に関する調査結果を発表した。社会人の男女を対象に、新入社員や後輩などについてWebアンケートで質問している。 Yahooニュースよりhttp://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20170307-00000063-zdn_lp-sci

「新入社員と価値観や世代の違いを感じたことはありますか？」という問いに対しては、約7割が「はい」と回答。

具体的にギャップを感じた点は以下の通り。

- ・「『ゲームの発売日だから』と新入社員が有給休暇を取得していた」(20代/女性)
- ・「接客業なのに、お客様に対して『ハンパないですよね〜』とか言っちゃう」(20代/女性)

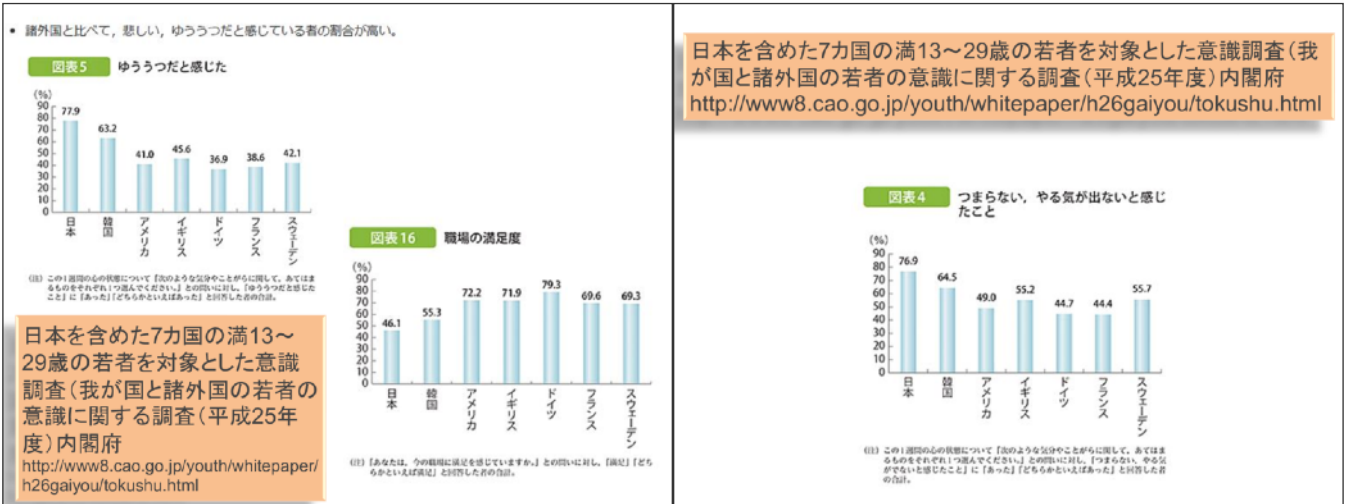
キャリアデザインセンターは3月6日(2017)、同社の運営する「typeメンバーズパーク」会員向けに実施した「モンスター新人」に関する調査結果を発表した。社会人の男女を対象に、新入社員や後輩などについてWebアンケートで質問している。 Yahooニュースよりhttp://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20170307-00000063-zdn_lp-sci

(つづき)

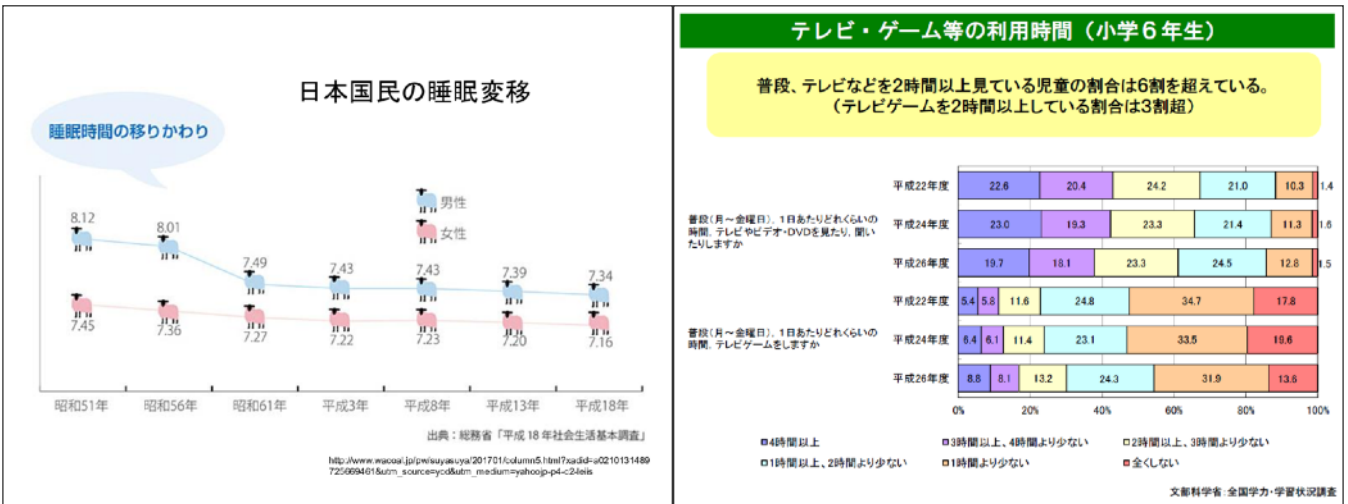
- ・「『明日雨なので休んでいいですか?』」(30代/女性)
- ・「電話に出るように言ったら『出方がわからないから出てください』と言われた」(40代/女性)

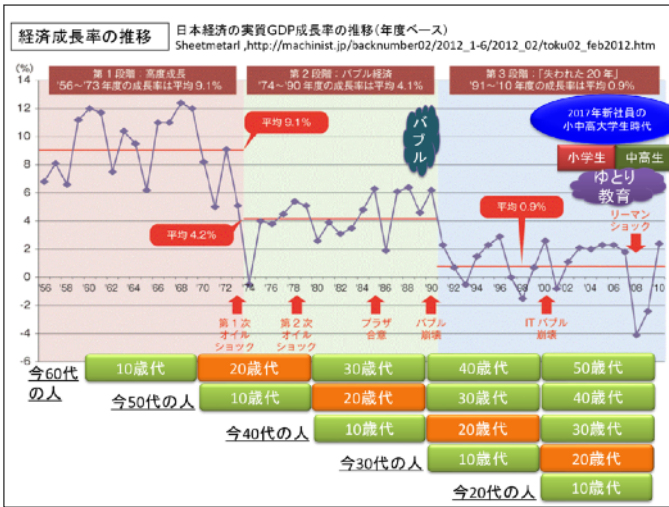
全体的に、「やる気がなさそう」「目上の人をナメている感じ」という声が目立ったという。

- ・13歳から29歳の若者の中で、一週間の中でつまらない、やる気が出ないと感じたことがあるか、という調査において、日本の若者は圧倒的に憂鬱を感じた割合が大きい
- ・悲しい、憂鬱だと感じた割合も多い
- ・原因の一つとして睡眠不足が考えられる
- ・職場への満足度も低い



- ・日本人の睡眠時間は年々減っている
- ・全国民の平均が減ることはかなり危ういこと
- ・睡眠が減ることは体のすべてに悪い。自律神経が乱れ、鬱々としやすくなる
- ・1日の中でテレビゲームを長時間行う子供が増えている
- ・ゲームは顔を合わせず、画面を見続けるものであるため、表情を読む経験が少なくなる原因の一つであると考えられる

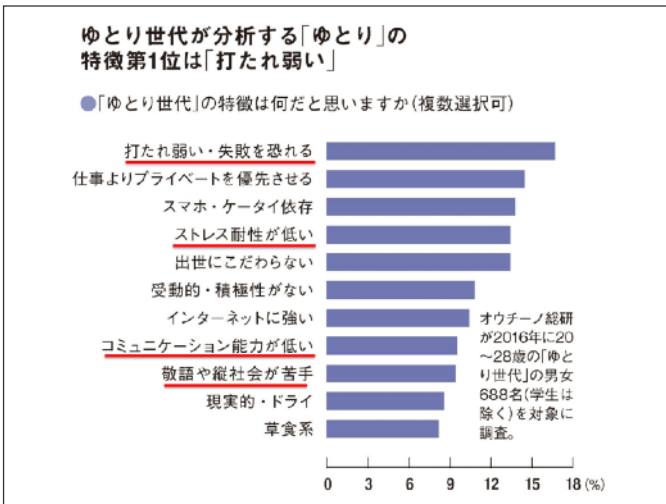




ゆとりでしょ?
そういうあなたは
バブルでしょ?
なおまるお前

サラリーマン川柳コンクール(第一生命)

- ・日本のGDPは3段階に分けて低下している
- ・60代は頑張れば報われ、夢があった。しかし現在の30代はGDPも低く、ITバブルがはじけ、リーマンショックも重なり、暗黒の時代そして新入社員は生まれてから一度も明るい時代を経験していない
- ・未来が暗いと感じているせいで憂鬱に感じている部分がない



●●さんにはこうしてください、と言われたので。
自分は特別。
1番じゃないといけないんですか?
教えてもらってません。
それ聞いてないです。
みんながアレ買ってくれた? 買いました!
いや、買わなくていいよ。買いたい人だけだよ...

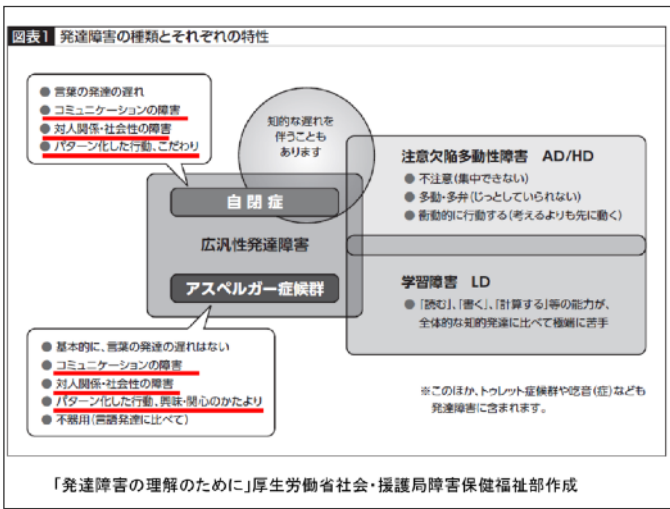
言われた以上のことはやれません。そこそこで満足です。

- ・本人たちも打たれ弱いという自覚はある
- ・しかしゆとり世代だからなのか、携帯のせい、経済のせいかわからない
- ・行間を読む教育をされておらず、彼らがわからないと感じてしまうのは、仕方がないという一面もある

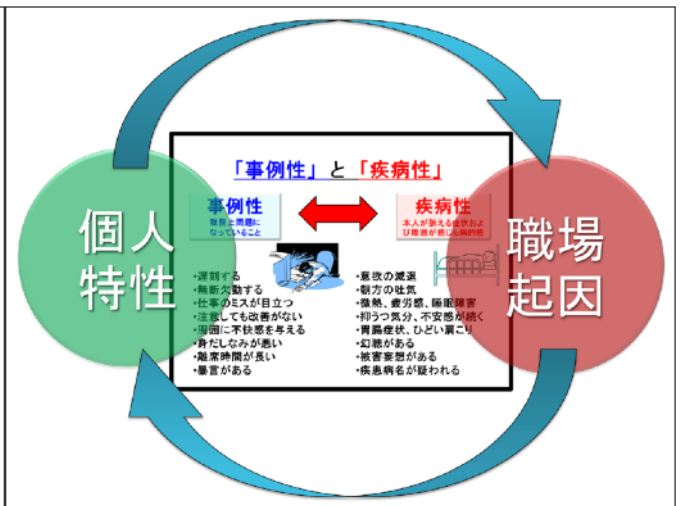
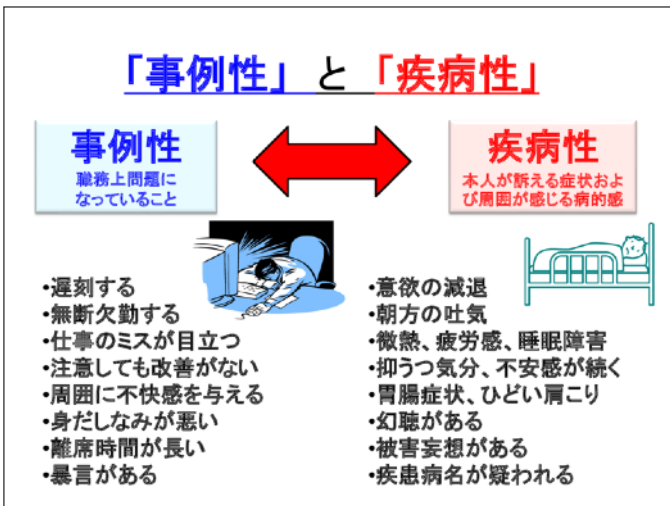


1. 脳の発達不足(自律神経不安定)
2. ストレス耐性の発達不足
3. コミュニケーション力の発達不足

- ・彼らの自律神経が乱れやすいのは、睡眠不足のためと考える
- ・睡眠が足りないと脳が発達できない
- ・睡眠不足は自律神経を乱す
- ・自律神経は自分でコントロールできないもの、心臓の動きや血圧、気持ちなど
- ・この自律神経のスイッチが乱れてしまうものがパニック障害などにあたる



- ・現在良く取り沙汰されている発達障害の症状は、ネット世代の症状とよく似ている
- ・薬の研究がされ、だんだんと自律神経をコントロールできるようになってきてはいる
- ・健康な脳ですら自律神経の乱れは起きるのに、慢性的な睡眠不足はさらに事態を悪化させる
- ・やる気が出ない、うまくパフォーマンスが上がらないという問題は睡眠不足からきていることが多い
- ・十分な睡眠をとることで、パフォーマンスの上がっていなかった人や憂鬱になっていた人が回復する

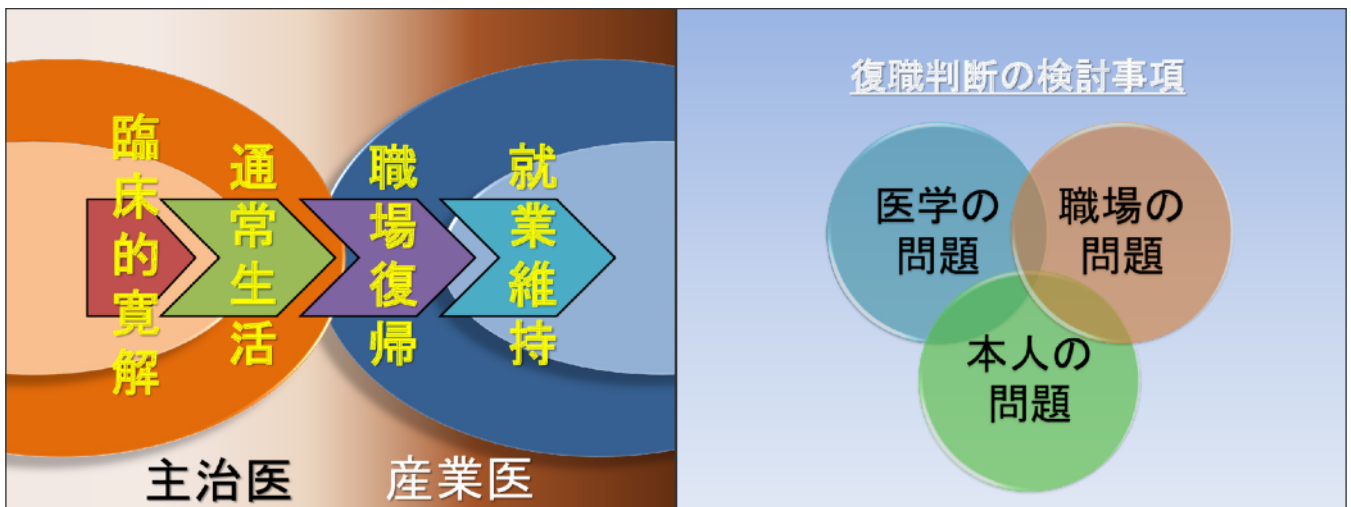




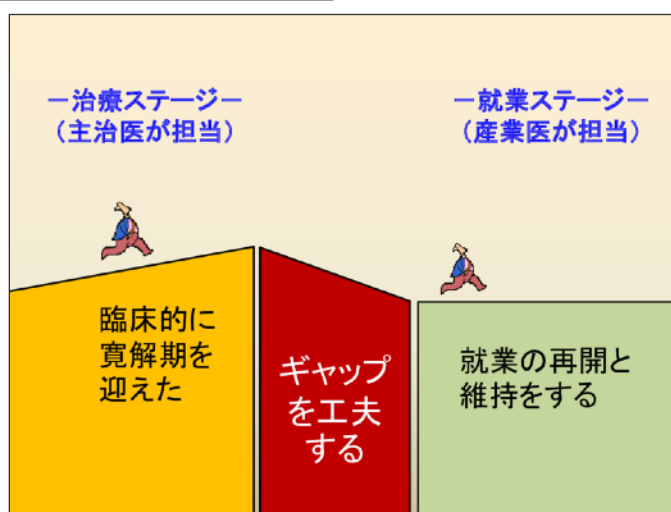
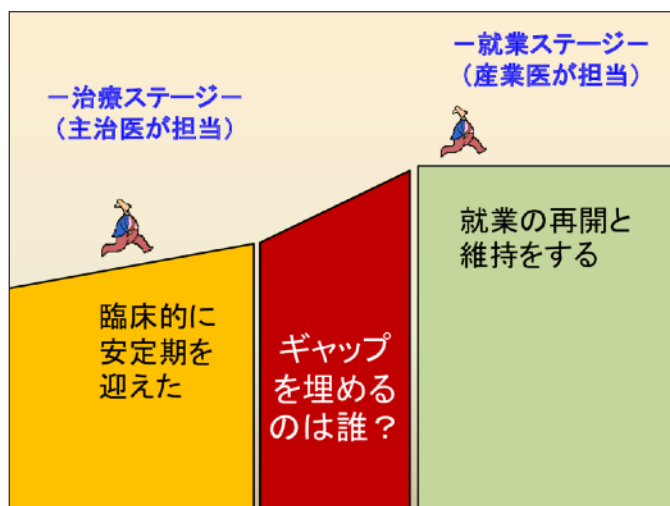
産業医が求めるのは、
疾病性の回復ではなく、
事例性の回復です！

復職判断

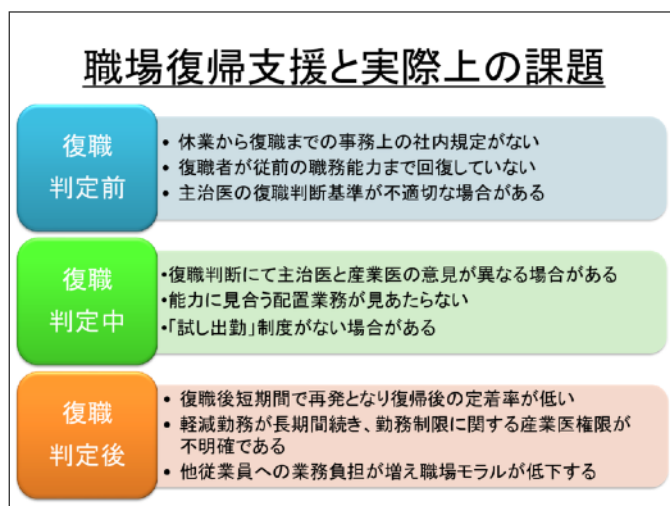
- ・ 誰にでも発達障害的な側面があると言えるが、症状として認定されるということはその中でも余程強い傾向があるということ
- ・ 産業医が気にするべきなのは疾病性よりも事例性
- ・ 職場において、業務を遂行できないことが問題なのであって、病気であることそのものが問題なわけではない
- ・ 職務を遂行する障害を排除することが目的であって、本人が病気か否かは元々は個人的なこと
- ・ 疾病性がないのであれば、上司はしっかりと指摘するべき



- ・ 疾病性のある事例だった場合は、しっかりと直さなければならない
- ・ しかし、寛解から職場復帰まで行くには難しい
- ・ たとえ日常生活を送れる程度に回復したとしても、それですぐに職場復帰できるとは限らない
- ・ 日常生活に復帰してから、職場に復帰するまでには大きなギャップがあるが、その差を埋めなければならないのは基本的に本人である。しかしそれを説明している産業医は多くない
- ・ 産業医の指導と主治医の指導は違う



- ・会社側としては、職場復帰した直後はハードルを下げたり、試し出勤をする、就業時間を短くするなどの対応が求められる
- ・しかしそれは一時的なもので、徐々に上げていかねばならない
- ・就業規則の中に復職規定がないこともあるため、産業医ではなく主治医のいう通りに出社させてしまったり、ずっとハードルを下げた状態で勤務させてしまう会社も存在する
- ・今後、会社の人間が問題を感じた時に確認すべきなのは事例性の方で、疾病性に関しては詳しくなければわからないため、産業医に相談することをお勧めする



Q&A

Q 実際に何も起きていないのならば、産業医に相談すべきではないのか

A もちろん、疾病を疑ったり、怪しいなと思った時に相談してもらうことはかまいません。

Q マネジメントに関して産業医の先生に教育してもらうにはどのようなセッティングをすべきか

A 働く人のパフォーマンスが低下した時、その原因を探り、そこに疾病性が見受けられた時に産業医への面談を進めれば良いです。

Q 産業医にはどの程度のことで判断を仰げば良いか

A 疾病性のありそうな症状は、本来健康な人であれば一つもないことが普通のはずですが、時々は落ち込んでしまうようなこともあります。一週間ずっと苦しんでいるようなことがあれば相談を進めると良いでしょう。

Q ストレスチェックで高得点が出たかわからないため、上司はそこを配慮できない安全配慮義務を遵守するためにも、高ストレスかどうかは知っておいた方が良いのではないか

A 安全配慮義務とはそもそも、客観的に見て危険と分かる状態を放置してはならない、ということです。本人が問題を隠しており、周囲がそれを察知できない場合には安全配慮義務は発生しません。また、年に一回のストレスチェックでわかることは限られるため、やはりその場その場で対応していくことが最も適切であると考えます。